

## 平成21年度「福井新元気宣言」推進に係る施策の実施結果 (平成22年3月末現在)

「福井新元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成21年4月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成22年3月

教育長 広部 正紘

### I 総括コメント

#### 1 教育力の向上と文化の創造

- ・ 「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、本県の子どもたちの学力および体力・運動能力はともに全国最上位の成果を収め、福井の教育力の高さは全国から大きな注目を集めました。
- ・ 平成21年10月に「元気ふくいっ子学力向上センター」を開設し、全国学力調査および県学力調査の結果や課題の分析、教員の指導力の向上などを進めました。
- ・ また、本県の子育て・教育の特長をまとめたパンフレットに加えて、書籍や雑誌、シンポジウム等により、全国に向けて福井の教育スタイルを発信しました。
- ・ 第三次教育・文化ふくい創造会議において、ふくい文化の振興方策について提言をとりまとめ、「ふれあい文化子どもスクール」や「文字の国 福井」をアピールするシンポジウムの開催など、新年度からの事業化を進めました。

#### 2 総合的な学力の向上

- ・ 「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、小学校1、2年への非常勤講師の配置と中学校2、3年の少人数学級編制を拡充しました。
- ・ サイエンス教育については、ノーベル賞受賞者・利根川進博士を招いて「ふくいサイエンスフォーラム」や「ふくい理数グランプリ」、「ふくいサイエンス寺子屋」など、子どもたちの理数学力と興味・関心を高めるための事業を引き続き実施しました。また、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」を創設し、理科・数学の研究発表等において特に顕著な成績を収めた中・高校生を表彰しました。
- ・ 高校生の就職を支援するため、高校に就職支援コーディネーターを配置し、企業訪問等を通じて、求人確保や卒業生の就業状況等の把握を行い、就職内定率の向上や離職率の低下につなげました。

#### 3 魅力ある学校の在り方

- ・ 「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」により、奥越地区の県立高校の在り方について、保護者や地域産業界代表、教育関係者等の意見を集約するなど、平成23年4月の奥越総合産業高校(仮称)の開校に向けて準備を進めました。

#### 4 いつでも身近に福井の文化

- ・ 白川静、南部陽一郎両博士をはじめとした本県ゆかりの偉人・先人を通して、郷土の歴史や文化を学ぶふるさと教育の拠点として、「県立こども歴史文化館」を整備しました。

#### 5 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

- ・ 平成30年に開催予定の第73回国民体育大会について、国体ビジョン策定委員会から「福井国体ビジョン」の提言を受け、国等に対して国体開催要請書を提出しました。

### II 施策項目に係る結果について

- ・別紙「平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)」のとおり

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化</p> <p>◇ 教育力の向上と文化の創造</p> <p>・「ふくい文化の振興方策」の立案</p> <p>県内外の有識者で構成する「教育・文化ふくい創造会議」において、「ふくい文化の振興」のテーマについて検討し、本県の独自性を生かした新たな文化政策を立案します。</p> <p>〔 21年度の検討テーマ ふくい文化の振興(20年度からの継続) 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「教育・文化ふくい創造会議」では、平成20年度に引き続き「ふくい文化の振興」をテーマに協議を進め、4章8項目からなる第三次提言として取りまとめ、2月9日に提出されました。</p> <p>この提言に基づき、「ふれあい文化子どもスクール」や、県内外に漢字の魅力を広める白川静博士生誕百年記念事業、地域づくりの核となる文化財の集中的整備など、文化面における本県独自の施策を速やかに実行していきます。</p> <p>〔 会議の開催状況 ○第三次会議(計6回) (検討期間) 平成20年11月～平成22年1月 (テーマ) ・ふくい文化の振興方策 (成果) 第三次提言(4章8項目) 〕</p>	
<p>◇ 総合的な学力の向上</p> <p>・「元気福井っ子新笑顔プラン」の推進</p> <p>平成20年度に定めた県独自の学級編成基準「元気福井っ子新笑顔プラン」を引き続き推進し、子どもたちの持つ可能性を最大限に伸ばすことができるよう、さらにきめ細やかな指導を行います。</p> <p>また、国に対して、同プランをモデルに学級編成基準の見直しを行うよう働きかけます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「新笑顔プラン」に基づき、県独自の少人数教育を拡充しました。</p> <p>小学1、2年生の学級への非常勤講師の配置を35人学級から34人学級へと拡充しました。</p> <p>また、中学校2、3年生の学級編成基準を35人から34人に引き下げました。</p> <p>〔 小学校1、2年 学校生活サポート非常勤講師の配置(34人以上学級) 小学校3～4年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化 小学校5、6年 少人数学級編成を実施 36人 中学校1年 " 30人 中学校2、3年 " 34人 〕</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・小中学生の学力向上の推進</p> <p>児童・生徒の課題を解決する力や、自発的に学習する力が伸びるよう、各小中学校の学力向上プランの推進を支援するとともに、活用する力の向上を図ります。</p> <p>また、県学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果分析をもとに、本県独自に開発した教材を活用し、更なる指導法の改善を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果をもとに、各小・中学校において学力向上プランを作成し、これに基づいた学習指導を実施しました。</p> <p>また、これら学力調査の結果明らかになった、読解力と算数・数学の活用力における課題について、学力向上推進委員会で改善策を検討し作成した指導事例集に基づき、全小中学校でそれぞれ授業改善を進めました。</p>	
<p>〔県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合 (平成20年度 小学校76.9% 中学校56.5%) 小学校 80% 中学校 60%〕</p>		<p>〔県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合 小学校 77.2% 中学校 57.8%〕</p>	
<p>・高校生の学力向上の推進</p> <p>学力向上推進委員会により本県高校生の学力の状況を的確に把握し、各学校の特性に応じて指導方法の改善を図るなど、高校生の学力向上を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県が独自に行った本県高校生の学力分析結果に基づき、5教科10科目の間違えやすいポイントをまとめた教材等を作成して、学校での教科指導に活用しました。また、教員の予備校派遣や公開授業・実験研修会等の開催等により、教員の指導力向上を進めました。</p> <p>この結果、大学入試センター試験において課題があるとされた数学ⅡBと生物Ⅰについて、受験者の平均点の全国順位が上昇するなど改善が見られました。</p>	
<p>・子どもの読書活動の推進</p> <p>子どもが自主的に楽しく読書に親しむ環境を整えるための施策を体系的に構築します。</p> <p>また、PTA等関係団体と連携し、家庭等にある図書への寄贈や公立図書館との連携を深め、学校図書館の充実を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくり」を基本目標とした「元気ふくいっ子読書活動推進計画」を策定しました。この計画に基づき、公立図書館での「家庭における読み聞かせ」研修講座の実施等、家庭、地域、学校を通じた読み聞かせの推進を重点に読書活動を進めていきます。</p> <p>また、学校図書館の充実について、学校単位での図書寄贈運動への参加を呼びかけるとともに、図書館運営ボランティアの活用や公立図書館からの団体貸出の利用を進めました。</p>	
<p>〔「新福井県子どもの読書活動推進計画」の策定 県立図書館の図書貸出冊数 (平成20年度 85万6千冊) 87万冊〕</p>		<p>〔「新福井県子どもの読書活動推進計画」の策定 平成22年3月 県立図書館の図書貸出冊数 89万冊〕</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 外国語(英語)教育</p> <p>・小学校での外国語(英語)指導                      小学校において、モデル校を指定し、英語ノート等を活用した外国語(英語)活動の推進方を研究します。                      また、小学校の教員を対象に、英語の指導者養成研修会を開催するとともに、モデル校の成果を普及し、教員の指導力向上に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成23年度からの外国語(英語)活動の本格実施に向けて、各小学校における英語活動を実施時間数を増やしました。                      また、小学生への外国語指導について小学校教員を対象とした研修会を開催し、モデル校(12校)での研究成果を各学校に普及しました。</p>	
<p>[英語活動の実施時間数 年間25時間]</p>		<p>[英語活動の実施時間数 年間28時間]</p>	
<p>・中学校での英語指導                      中学校において、授業中に英語を使用する時間を増やすとともに、英語担当教員と外国語指導助手(ALT)による教授法の共有化を図り、児童・生徒の英語に対する興味・関心や英会話能力を高めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>中教研英語部会を通して”聞く力”と”話す力”の強化を周知・指導し、授業中に英語を使用する時間を増やすなど、英会話活動の充実を図りました。                      また、外国語指導助手(ALT)の研修に英語担当教員も参加して互いに研究し合うなど、研修内容の充実を図りました。</p>	
<p>[授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) (平成20年度 48.0%) 49.0%]</p>		<p>[授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) 49.0%]</p>	
<p>◇ サイエンス(理科、算数・数学)教育</p> <p>・分かりやすい理科授業                      小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」の配置や専門的な内容を分かりやすく教える特別講師の派遣を拡充し、分かりやすい理科授業を広く行い、理科授業の充実を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>理科支援員などの配置により、実験等を多く取り入れた理科授業の実施を進め、「実験が増えて理科が好きになった」、「教科書に書いてある意味がよくわかった」など、理科に対する児童の興味・関心を高めることができました。</p>	
<p>[「理科支援員」または「特別講師」の活動学校数(平成20年度 71校) 85校]</p>		<p>[「理科支援員」または「特別講師」の活動学校数 86校]</p>	

## 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「ふくいサイエンス寺子屋」の開催 放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、科学実験等を行う「ふくいサイエンス寺子屋」を開催し、理科や算数・数学に対する興味・関心を高めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「ふくいサイエンス寺小屋」では、学校で習わない内容を体験できることから開催希望が多く、目標を1割以上上回って開催しました。 平成22年度も、より多くの地域で開催できるよう働きかけていきます。</p>	
<p>〔「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数(平成20年度 100か所) 100か所〕</p>		<p>〔「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 115か所〕</p>	
<p>・世界に通じる知的探究心の育成 世界の最先端科学技術に触れ学ぶ「スーパーサイエンスフォーラム」や理科・数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ」を開催し、サイエンスに対する知的探究心をさらに育成し、国際科学コンテスト等への参加機運を高めます。 また、県内外の大学や企業、民間団体等との連携を図り、本県の中・高校生が国際的なセミナーや研究機関での研修等に参加する機会をつくります。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>ノーベル生理学・医学賞を受賞された利根川進博士を迎えて、1月に「スーパーサイエンスフォーラム」を開催しました。 全国規模の科学コンテスト等への参加数は、その難易度の高さから参加を躊躇するなど、前年度の7割にとどまりましたが、中・高校生を対象に開催した「ふくい理数グランプリ」は、応募者数が当初の目標を大きく上回りました。 このほか、日本学生科学賞の入選者が2年ぶりに本県から選出されるなど、中・高校生のサイエンスへの関心は高まりました。</p>	
<p>〔全国・世界規模の科学技術コンテストへの参加者数(平成20年度54人) 60人 「ふくい理数グランプリ」への参加者数(平成20年度 207人) 250人〕</p>		<p>〔全国・世界規模の科学技術コンテストへの参加者数 37人 「ふくい理数グランプリ」への参加者数 302人〕</p>	
<p>・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞(仮称)の創設 南部陽一郎博士のノーベル物理学賞受賞を記念した表彰制度を創設し、理科・数学の研究やコンテストにおいて特に顕著な功績を挙げた中・高校生を表彰し、先端科学技術の発展に寄与できる人材を育成します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」を創設し、中学生部門で最優秀賞1名と優秀賞2名、高校生部門で最優秀賞1名と優秀賞3グループを表彰しました。 受賞者には、南部博士の直筆サインを刻印したメダルを授与し、中・高校生の研究意欲を後押ししました。</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 職業意識の醸成</p> <p>・ 高校生に対する就職支援</p> <p>高校生の就職内定率の向上を図るため、教員による企業訪問や就業体験を実施するとともに、就職した卒業生に対してきめ細かなフォローアップを行い、離職率の低下を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>就業体験や内定者に対するビジネススキルアップセミナーを実施し、高校生の就労意識の向上を図りました。また、教職員や就職支援コーディネーターが企業を訪問し、求人確保や卒業生の就業状況等の把握に努めた結果、就職3年後の離職率は昨年度より低下しました。引き続き、就業体験等を充実するとともに、社会人に必要なコミュニケーション能力の育成や就職後のフォローアップを強化し、離職率のさらなる低下を目指します。</p>	
<p>〔 高校生の就職3年後の離職率 (平成20年度 43.7%) 42% 〕</p>		<p>〔 平成18年3月卒業者の3年後離職率(平成21年度) : 40.9% 〕</p>	
<p>◇ 楽しい学校づくり</p> <p>・ 不登校の減少</p> <p>不登校の減少を図るため、大学教員や臨床心理士など専門家の意見も聞きながら、市町教育委員会とともに具体的な対策を進めます。特に、学校では、昨年度作成した学級運営指導書によりスキルアップを図り、通うのが楽しい学級づくりを進めます。また、課題解決プロジェクトチームを設置し、家庭や地域社会における対策も検討します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>学校向けに学級運営指導書をもとにした研修会を開催し、学級担任の学級づくりのスキルアップを図りました。また、「不登校・引きこもり対策プロジェクトチーム」を設置し、有識者等からの意見を参考に、不登校の未然防止に重点を置いた小学校から高校まで一貫した不登校対策を打ち出しました。平成22年1月に全ての公立小中学校長を対象とした不登校対策研修会を開催したほか、平成22年度からは、新たな指針に基づき、不登校児童生徒の早期復帰を目指した不登校対策を進めます。</p>	
<p>〔 不登校児童・生徒数(公立のみ) 〕</p> <p>〔 平成20年度問題行動調査 小学校 152人 中学校 649人 〕</p> <p>〔 小学校 160人 中学校 630人 〕</p>			
<p>・ スクールカウンセラーの配置の拡大</p> <p>「心の専門家」であるスクールカウンセラーの小学校への配置を拡大し、児童・生徒の心の悩みの解決を図り、不登校やいじめ等の問題に的確に対処します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>スクールカウンセラーの小学校への配置を21校に拡大し、子どもたちの心の悩みに対処する相談体制の充実を図りました。</p>	
<p>〔 スクールカウンセラー活動校数 〕</p> <p>〔 平成20年度 中学校 76校(全公立中学校) 小学校 11校 〕</p> <p>〔 中学校 74校(全公立中学校) 小学校 21校 〕</p>		<p>〔 スクールカウンセラー活動校数 中学校 74校 (全公立中学校) 小学校 21校 (10校の増加) 〕</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 魅力ある学校の在り方</p> <p>・ 県立高校の再編整備</p> <p>生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、県立高等学校再編整備計画に沿って、県立高校の再編整備を進めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>平成21年3月に策定した「県立高等学校再編整備計画第1次実施計画」の実施に向けて、保護者や地域産業界代表、学識経験者、教育関係者などによる「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」を開催し、奥越地区の県立高校の在り方について意見を集約しました。</p> <p>また、第2次実施計画の策定に向け、若狭地区、坂井地区および二州地区で高校教育懇談会を開催し、地域の様々な人々から意見を聴取しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成21年 8月 奥越地区魅力ある高校づくり検討会議設置 平成21年12月 同会議報告書提出</p> <p>平成21年 10月～ 若狭、坂井、二州地区において地区ごとの高校教育懇談会を順次開催</p> </div>	
<p>・ 小中学校の統廃合に伴う支援の充実</p> <p>統廃合を行った小・中学校に教員1名を増員し、児童・生徒の新しい学校での学習や生活を支えます。</p> <p>また、統廃合に伴い、校舎を公民館や自然・農業体験施設などへと改修するなど、地域の活力の向上やコミュニティ活動の推進を図るために有効に活用する市町を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成21年度から統廃合になった小中学校4校に、教員を1年間増員配置しました。</p> <p>また、旧越前町系生中学校の空き校舎を公民館および簡易宿泊施設に改装するために支援しました。</p>	
<p>◇ いつでも身近に福井の文化</p> <p>・ 「福井子ども歴史文化館」の開館</p> <p>次代の福井県を担う子どもたちが、歴史上活躍した人物や、白川静・南部陽一郎両博士、各分野で活躍する達人の生き方や業績など、郷土の歴史文化を学び親しむ拠点「福井子ども歴史文化館」を開館します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成21年11月28日に、福井の歴史上の先人や現代の達人について楽しく学ぶことができる全国初の子ども向けの歴史文化施設「県立こども歴史文化館」を開館しました。</p> <p>開館に合わせて、南部陽一郎博士から、福井の子どもたちに向けたメッセージとノーベル賞メダルのレプリカ、使用したノートなどの寄贈を受けました。</p> <p>(21年度の来館者 13,487人)</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「白川文字学」の普及 全小学校で実施している「白川文字学」を活用した本県独自の漢字学習の充実を図るとともに、本県独自の漢字学習カリキュラムの開発に向けて研究を進めます。 来年4月に「白川静博士生誕百年」を迎え、さらに「白川文字学」の普及を図るため、記念行事の開催等を検討します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を全小学校で実施しました。また、漢字学習に効果の高い教具を全小学校に配付するとともに、平成23年度から全小学校で授業に取り入れられるように、独自の漢字学習カリキュラムの開発や副読本の作成など施行に向けた準備を整えました。 また、1月には、故白川静博士の偉業を改めて顕彰するため、立命館大学と連携して、南青山291で白川文字学を学ぶイベントを開催しました。 平成22年度には生誕百年の記念事業として、漢字をテーマにしたシンポジウム等を開催し、「文字の国 福井」を全国に発信していきます。</p>	
<p>・子どもたちが本物の芸術・文化に直接触れる機会の充実 県立音楽堂や学校などで、子どもたちが第一級の芸術・文化を直接体験できるよう、音楽や絵画等の鑑賞機会を拡充し、気軽に芸術・文化に親しみ楽しめる機会を増やします。</p> <p>〔第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 (平成20年度 60,692人) 62,000人〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内の小学5,6年生全員を対象としたオーケストラ鑑賞を含め、第一級の芸術文化を直接、鑑賞・体験する子どもの数は、平成20年度を上回る74,938人となりました。 平成22年度においても、県内すべての小学5年生を対象とした「ふれあい文化子どもスクール」の実施など、子どもたちに第一級の芸術文化を鑑賞・体験する機会の充実に努めていきます。</p> <p>第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 74,938人 &lt;内訳&gt;</p> <p>(1)芸術文化を鑑賞する機会への参加 子ども鑑賞シート・ちびっこコンサート(いずれも県立音楽堂)、ふれあいミュージアム、芸術鑑賞教室、子どものための特別文化・芸術体験クルーズほか (開催数 149回) 58,678人</p> <p>(2)芸術文化を体験する機会への参加 伝統文化子ども教室、文化芸術による創造のまちほか (開催数 183回) 4,434人</p> <p>(3)活動内容を発表する機会への参加 ふくい子ども文化祭、県高等学校総合文化祭 (開催数 22回(部門)) 9,774人</p> <p>(4)芸術文化のレベルアップを図る機会への参加 「ヤング・アート・キャンプ」、ハーモニーセミナーなど (開催数 19回) 2,052人</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘																						
項目		実施結果																							
<p>・文化財の調査と指定の推進</p> <p>県内の文化財について詳細な調査を実施し、歴史的・学術的な価値を明らかにします。また、その保存と活用のため、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>新たに、近代和風建築総合調査および白山信仰関係文書調査に着手するとともに、これまでに実施した庭園や考古資料などの基礎調査に基づき、文化財に関わる専門職員で構成する推進チームが指定候補の選定作業を進めました。</p> <p>また、国指定文化財の候補については、文化庁に対して保存修理や発掘調査の進捗や実施結果について、積極的に情報提供しました。その結果、今年度は新たに11件が国・県の指定等文化財となりました。</p> <p>平成22年度においても、必要な調査を計画的に行うことにより、文化財の価値を明らかにし、文化財の新規指定・登録を進めます。</p>																							
<table border="0"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 平成20年度における指定等件数             </td> <td style="padding: 5px;">25件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 重要文化財             </td> <td style="padding: 5px;">2件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 重要伝統的建造物群保存地区             </td> <td style="padding: 5px;">1件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 国登録有形文化財             </td> <td style="padding: 5px;">18件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 県指定文化財             </td> <td style="padding: 5px;">4件</td> </tr> </table>		平成20年度における指定等件数	25件	重要文化財	2件	重要伝統的建造物群保存地区	1件	国登録有形文化財	18件	県指定文化財	4件	<table border="0"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 平成21年度における指定等件数             </td> <td style="padding: 5px;">11件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 史跡(追加指定)             </td> <td style="padding: 5px;">1件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 国選択無形民俗文化財             </td> <td style="padding: 5px;">1件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 国登録有形文化財             </td> <td style="padding: 5px;">3件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">                 県指定文化財             </td> <td style="padding: 5px;">6件</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"></td> <td style="padding: 5px;">(建造物2件、美術工芸品4件)</td> </tr> </table>		平成21年度における指定等件数	11件	史跡(追加指定)	1件	国選択無形民俗文化財	1件	国登録有形文化財	3件	県指定文化財	6件		(建造物2件、美術工芸品4件)
平成20年度における指定等件数	25件																								
重要文化財	2件																								
重要伝統的建造物群保存地区	1件																								
国登録有形文化財	18件																								
県指定文化財	4件																								
平成21年度における指定等件数	11件																								
史跡(追加指定)	1件																								
国選択無形民俗文化財	1件																								
国登録有形文化財	3件																								
県指定文化財	6件																								
	(建造物2件、美術工芸品4件)																								
<p>・「平成ふくい風土記」運動の展開</p> <p>「ふくい いろはかるた」の活用・普及をはじめ、祭りや暮らし、歴史などを整理・記録し、広く県民に知ってもらえるよう「平成ふくい風土記」運動を進め、長い歴史の中で培われてきた地域が持つ個性を後世に伝えます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>伝統芸能をはじめとした県内の文化財を紹介するホームページ「福井の文化財」を新たに立ち上げるとともに、越前の正月・小正月行事(栗田部の蓬萊祀、池田の能面祭り、惣田正月十七日講、大本のみそぎ)について、映像記録を作成しました。</p> <p>また、「ふくい いろはかるた」の普及・活用を図るため、こども歴史文化館でのかるた大会や、県立図書館でのかるた展示会などを開催しました。</p> <p>平成22年度においても、かるたを活用した郷土学習の普及をはじめ、「平成のふくい」を後世に伝える運動を進めていきます。</p>																							

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「ふくい民俗芸能群」の認定</p> <p>個々の祭りや民俗芸能、習俗を次世代に守り伝えるため、その特徴ごとにまとまり(群)として捉え、その価値を顕在化できるよう、「ふくい民俗芸能群」として認定し、県内外へ情報発信することにより、伝統文化の保存・伝承を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>個々の民俗芸能等の価値を明らかにするため、「民俗芸能等群認定制度」を創設し、ふくい無形民俗文化財保存活用推進会による国・県指定無形民俗文化財等の群認定を行いました。</p> <p>また、認定した民俗芸能等についてホームページ「福井の文化財」でその由来や概要を紹介するとともに、越前の正月・小正月行事については、映像記録の作成などの支援を行いました。</p> <p>平成22年度においても、引き続き群認定や情報発信等を進めます。</p> <p style="text-align: center;">〔 民俗芸能等群 128件 〕</p> <p style="text-align: center;">①越前の正月・小正月行事      ⑤厄除け行事・お祓いの芸能                  ②若狭の正月・小正月行事      ⑥港町の祭りと山車                  ③ふくいの盆行事                  ⑦舞楽法要・神楽                  ④ふくいの農耕習俗</p>	
<p>◇ 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援</p> <p>・第73回国民体育大会の開催に向けた準備</p> <p>「国体ビジョン策定委員会(仮称)」を開催し、「国体検討懇話会」から提言された「新しい形での国体」の具体化を検討します。</p> <p>また、「スポーツふくい基金」の創設については、「国体ビジョン策定委員会(仮称)」の議論を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>2月に「国体ビジョン策定委員会」から、「スポーツの感動を広め、未来へつなげる」を基本目標とする「福井国体ビジョン」が提出されました。この内容を受けて、文部科学省および財団法人日本体育協会へ開催要請書を提出しました。</p> <p>また、生涯スポーツの振興と世界に通じる選手の育成とあわせて、国民体育大会の準備等に活用するため、平成22年度に「スポーツふくい基金」を創設することとしました。</p> <p style="text-align: center;">〔 スポーツふくい基金 基金総額 53.5億円(22年度において造成) 〕</p>	
<p>・「スポーツ大好きっ子」の育成</p> <p>スポーツを得意としない児童が、放課後にドッジボールやソフトバレーボールなど身近なスポーツ等を行うことにより、子どもの頃から体を動かす習慣を身に付けるよう支援し、スポーツが大好きな子どもの育成を進めます。</p> <p style="text-align: center;">〔 週1回、放課後1時間程度の運動を実施実施する学校数 (平成20年度 8校) 17校 〕</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教職員や外部指導者の指導を受けながら、主に運動習慣のない児童を対象に、学校や地域の実態に応じて週1回、1時間程度、ドッジボールなど体を動かす活動を全ての市町17小学校で実施しました。</p> <p>全国体力・運動能力テストでは、小学生および中学生女子が全国1位、中学生男子は全国3位という、昨年度同様全国最上位の結果を収めました。</p> <p>引き続き、子どもたちに体を動かす喜びを与えることにより、生涯にわたる運動習慣が身に付くよう、県下の児童生徒が種目ごとに記録を競い合う「ザ・チャレンジ」や学校ごとの計画に基づく体力づくりなどの活動を続けていきます。</p> <p style="text-align: center;">〔 週1回、放課後1時間程度の運動を実施する学校数 17校(9校の増) 〕</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「健民スポーツ運動」の推進</p> <p>県民スポーツ祭における冬季開催種目の充実や、総合型地域スポーツクラブでの交流の促進など、年間を通じて県民の誰もがスポーツやエクササイズを生活に取り入れる「健民スポーツ運動」を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭の実施競技種目数の増加(65→66種目)や冬季に開催する種目を増やすなどにより、参加者数は平成20年度に比べ、約1,000人増加しました。</p> <p>また、総合型地域スポーツクラブは、平成21年度中1クラブ創設され、平成22年度には県内10市町で18クラブが活動します。</p>	
<p>〔 県民スポーツ祭参加者数 (20年度 27,500人) 28,000人  総合型地域スポーツクラブ総数 (20年度 17クラブ) 18クラブ 〕</p>		<p>〔 21年度県民スポーツ祭参加者数(17市町) 28,499人  総合型地域スポーツクラブ数 18クラブ 〕</p>	
<p>2 女性活躍社会</p> <p>◇ 女性の活躍支援</p> <p>・配偶者暴力対策</p> <p>交際相手からの暴力(いわゆる「デートDV」)が、将来において配偶者暴力に発展しないよう、予防のための授業を高校において実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>デートDV防止の取組みを進めるため、高校の家庭科教員を対象にデートDV防止講座を開催するとともに、啓発用デートDV防止パンフレットを作成し、各校に配付しました。なお、今後の参考とするため、高校での家庭科の授業等の実施の後、受講した生徒にデートDVに関するアンケートを行いました。</p>	
<p>〔 デートDV予防のため授業を実施した高校数 県内全高等学校 〕</p>		<p>〔 デートDV予防のため授業を実施した高校数 県内全高等学校 〕</p>	
<p>◇ 日本一の子育て応援システム</p> <p>・「放課後子どもクラブ」への支援</p> <p>地域の実情に応じて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。また、市町に対して、希望者全員が入所できるよう空き教室を活用した「放課後子どもクラブ」の新設・拡充を働きかけます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内195校区(前年度よりも3校区増)において「放課後子どもクラブ」を実施しました。</p> <p>また、学校の空き教室等の利用による実施を進めるため、県独自の補助制度を拡充し、市町の負担の軽減を図りました。</p> <p>平成22年度からは、小学校4年生以上や留守家庭以外の児童の受入れに対する県独自の支援を追加し、市町の負担軽減をさらに進め、希望する児童すべてが入所することにより、安心して放課後を過ごすことのできる環境の整備を支援していきます。</p>	
<p>〔 放課後子どもクラブ実施校区数 (平成21年度当初 205校区中192校区) 205校区195校区(3校区の増) 〕</p>		<p>〔 放課後子どもクラブ実施校区数 205校区中195校区(3校区の増) 〕</p>	

# 平成21年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<b>3 日本一の安全・安心(治安回復から治安向上へ)</b> <b>◇ 「安全・安心ふくい」実現プランの実行</b> ・安全教育の徹底と安全確保活動の支援 教職員等に対する防犯教育講習会の開催やスクールガードリーダーの巡回による防犯体制および見守り活動の充実など、登下校時を含めた子どもの安全確保活動を支援します。		[成果等] 目標を達成しました。  小・中・高校において、より実践的な防犯教育が実施できるよう各学校の安全管理・安全教育責任者や保護者、地域関係団体を対象に防犯教室講習会を開催し、学校・家庭・地域の連携強化に対する意識を向上させました。 また、スクールガードリーダーによる学校周辺や通学路等の巡回指導を実施し、地域内の危険箇所の点検や見守り活動の充実に努めました。	
[主な安全活動支援 ・防犯教室講習会 H21.7.31 会場:福井市 参加者:教職員、PTA、見守り隊等 320名 ・スクールガードリーダー配置 28名、県内6ブロック、1人約10校相当                 ]		[ ]	
<b>◇ 自然災害に対する安全・安心の確保</b> ・公立学校の耐震化の促進 学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、県内の小・中学校の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。		[成果等] 目標を上回って達成しました。  耐震補強工事については、小・中学校施設の耐震化促進を支援するための県独自の補助制度により、市町の負担軽減を図りました。今後とも、市町への働きかけを一層強化し、耐震化を促進していきます。	
[耐震補強工事(平成20年度 35棟) 25棟]		[耐震補強工事 123棟(22年度への繰越を含む)]	
<b>4 力強いプライドの農林水産業</b> <b>◇ 食育・地産地消の推進と食の安全</b> ・おいしい福井の学校給食の実現 栄養教諭が中心となり、地場産農産物を活用した学校給食を通じ、児童・生徒や保護者に対し食育の大切さを伝えるとともに、食育ボランティアと連携し、共同調理方式の受配校によりおいしい学校給食を提供します。		[成果等] 目標を一部達成しませんでした。  県内の7共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携した学校給食の提供や食育活動を行いました。また、学校給食調理コンテストや児童・生徒が主体的に取り組む食育実践活動の発表会等、児童・生徒や保護者の学校給食への関心を高める活動を行いました。 これらにより、地場産学校給食の実施校数および朝食欠食率は目標を達成しましたが、学校給食が「好き」と答えた子どもの割合は、目標の達成にいたりませんでした。	
[地場産学校給食の実施校数 (平成20年度 271校) 282校 学校給食が好きな子どもの割合 (平成20年度 64.1%) 67.5% 朝食欠食率 (平成20年度 1.2%) 1.1%                 ]		[地場産学校給食の実施校数 285校 学校給食が好きな子どもの割合 55.6% 朝食欠食率 0.4%                 ]	